

第58回

島根県総合美術展



日本画、書、洋画、工芸、写真、デザイン、彫刻の7部門

中央展

令和7年11月15日(土)～11月23日(日)

島根県立美術館 企画展示室およびギャラリー

開館時間／10:00～18:30 (入場は18:00まで)

※最終日は10:00～15:00 11月18日(火)は休館日です。

移動展

令和8年3月6日(金)～3月9日(月)

島根県立石見美術館 (グラントワ内) 展示室

開館時間／9:30～18:00 (入場は17:30まで)

※最終日は9:30～16:00

■主催／島根県文化団体連合会、島根県 ■共催／公益財団法人しまね文化振興財団 ■主管／島根日本画協会、島根書道会、島根洋画会、山光会、島根工芸連盟、島根写真作家協会、島根県写真家連盟、島根デザイン連盟、島根彫刻会 ■協賛／朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、山陰中央新報社、島根日日新聞社、共同通信社松江支局、時事通信社松江支局、BSS 山陰放送、エフエム山陰、TSK さんいん中央テレビ、島根県ケーブルテレビ協議会、公益財団法人ごうぎん文化振興財団、島根県公立文化施設協議会、しまねミュージアム協議会
■後援／読売新聞松江支局、新日本海新聞社、中国新聞社、産経新聞社、NHK 松江放送局、日本海テレビ
表紙デザイン：勝田優介 (第57回県展デザイン部門知事賞受賞者)

目 次

日 本 画	1
書	5
洋 画	10
工 芸	15
写 真	20
デザイン	26
彫 刻	31

審査員一覧

【県外審査員】

工 芸	藤井 茂樹氏（新見美術館館長）
写 真	川口 和子氏（一般社団法人二科会写真部常任理事）
デザイン	伊藤 麻子氏（尾道市立大学芸術文化学部美術学科准教授）
彫 刻	兼原 啓二氏（長崎大学人文社会科学域（教育学系）准教授 自由美術協会会員 長崎県美術協会会員）

【県内審査員】

日 本 画	大森幹雄、小村俊美、東野布由美、広田あつ子、福間小夜子、三島京子、村上ななほ、森脇純子、吉岡珠恵、米原ひろこ
書	有間裕子、伊藤蘭峯、井上洋美、小川 南、郷原久美子、角折和夫、戸津川政世、中尾弘子、室下景雲、山本英雲、和田美芳
洋 画	春日裕次、金築秀俊、川上浩平、北本雅己、近藤 顕、佐田尚穂、田中敬二、田邊二枝、常松育夫、鶴原 勲、鳥屋尾敬、豊島美智恵、中島啓子、仲西嗣雄、原 昌之、藤原房子、二岡みえこ、前島由紀子、松村 豊、三島耕二、目次隆志、持田隆志、森井久司、山岡晴夫、山崎一枝、山田悠紀子、山本昌子、米原夕美子、和崎正美
工 芸	吾郷江美子、荒尾浩之、石村 稔、犬山卓也、内田和秀、藤間 寛、長岡住右衛門、濱田幸介、正木 潤、松浦弘美、松本三千子、渡部良和
写 真	井上健治、大坂 武、大下浩昭、川本貢功、小林茂雄、酒井重礼、田中利博、常松利理、西尾 透、品川 功、波積 薫、盆子原政司、三加茂幸子、吉崎佳慶
デザイン	秋國紋子、石野 眞、内田京子、遠藤 毅、奥美奈子、小原恭子、梶 明広、春日謙一、近藤 隆、玉木喜久代、寺尾 堂、平江 透、品川良樹、柳楽武臣、錦織秀行、野々内政美、原 真人、山川房子、代高田由梨
彫 刻	伊藤眞美、近田裕喜、田中俊晞、松本健志

日本画

応募点数	30点	招待作品	11点
入賞点数	7点	展示点数	41点
入選点数	23点	移は移動展出品作品	

(総 評) 今年もまた、出品点数減のコメントから始める残念な結果となりました。近頃では、県展出品規定より小さい作品での各市美展での日本画の出品数も毎年減少を辿っています。

それでも年々作品の向上は素晴らしいものがあります。日本画は少し取り扱いが厄介な材料ではありますが、今回の出品作は、表現の自由の元に、型にはまらない表現で描写されており、絵の具の塗り重ねで、深い色や陰影を表現されているものや、絵の具そのものの持つ色の美しさを生かした明るい色調のものもあり、絵の背景作りにも様々な工夫を凝らした作品も多く見られ、出品数が少ないながら賞の選考は熱いものとなりました。

出品者の皆様の年齢も毎年高くなっていますが、年齢を全く感じられない、瑞々しく、新鮮な作品となっています。

世間の流れに反比例する、超アナログな日本画ですが、この展覧会を通して、かつて日本画に触れた方も、新しく日本画に出逢ったという方も、少なからず心を動かしていただけたら、日本画の継承の途につながるのではないかと願っています。

(文責 東野布由美)

知事賞 移

いの 祈り

ふる もり かず よ
古 森 和 代 (浜田市)

圧倒される程の力強さと繊細さで、観る者の心を鷲掴みにされるような力作です。

画面下部は樹木のように、中央部は教会内、そして上部は太陽が描かれていて、作者の宗教心や心情を想像でき、深い思考を感じます。

下地に塗り込まれた多様な色が効果的で、黒色でまとめられていますが、その黒色の濃淡も微妙な変化をもたらしています。金の砂子もアクセントとして、画面に柔らかな動きを感じさせます。

作風とテーマが見事にはまり、圧巻の受賞となりました。 (文責 吉岡 珠恵)

金 賞 ⑨

シュービル

井 上 智 子 (松江市)

日本画の技法である揉み紙を駆使し、幻想的な背景とリアルな写実が交錯した不思議な存在感のある作品です。

シュービルはハシビロコウの英名で、木靴のような嘴や目つき、羽毛等の特徴が丁寧に描き込み相反してアンティーチョークの花は色彩を抑え細部はこだわらず、画面の雰囲気や空気感を大切に表現されています。一見地味な色彩の作品ですが、意図を持って施された揉み紙技法と鳥と花の絶妙なバランスが、この作品の成功要因になっています。

(文責 福間小夜子)

銀 賞 ⑨

刻を待つ

三 浦 泉 (松江市)

絵画で最も難しいことのひとつは、形の無いものを形にすることです。背景の虚空こそが、この作品の主役。半透明のぼらや、人の形代のような小鳥。扉のない鳥籠。霧の中にとりのこされた心地のする、ほの暗い空間。省略すべきは省略し、描きこむべき所は繊細に扱われ、抑制がきいています。

作者のロマンチズムが銜いなく表現され、潔い心意気が伝わってきます。

(文責 三島 京子)

銀 賞 ⑨

残響

青 木 佳寿枝 (出雲市)

日中のフル稼働を終えたベルトコンベアのある工場の風景です。全体的に茶系や灰色系の落ち着いた色調でまとめられています。

的確な構図により画面に大きな流れを感じます。また機械の細部にわたる確かなデザインが画面を引き締めています。現場の時の流れと静けさが巧みに表現された秀作です。今後も青木さんの色を大切にますますの発展を願っています。

(文責 森脇 純子)

銅 賞 ⑨

時の欠片

片 石 栄 子 (雲南市)

「時の欠片」と題された本作は、欧州の古い街の裏通の一隅が描いてあります。

画面の垂直な線がのびやかで、すっきりした構成で、路面の荷車が、時の流れと街の静かな情景を表わし画面を引き締めています。

画面全体を渋い色調で統一し、古都の歴史を確かな描写力で昇華させた秀作です。

ただ、写真を参考に描いたであろう、レンズのひずみが感じられます。

県展出品2回目での受賞、今後の絵画展開が楽しみです。

(文責 大森 幹雄)

銅 賞 ⑨

踊子草

千 原 優 子 (奥出雲町)

少し湿った土地の草むらに、見つけることができた草花でしょうか。足元で、咲いていた小さな花、菅笠をかぶって、下向きの可憐な、薄紫の色の花が目にとまった作者の、気持ちの優しさを感じ取りました。踊り子のリズム、外にむかって咲いている魅力や嬉しさを大きく表現されたと思います。中央に、明るい花と葉も彩度を上げたらよかったかなと思います。

(文責 村上ななほ)

銅 賞 ⑩

憤怒

稲 村 正 志 (出雲市)

京都南大門の仁王様が力強く描かれています。仁王は金剛力士のことであり邪悪なものへの侵入を防ぎます。

この作品は黄色の仁王とその反対色に近い群青色のコラボレーションがうまくいき、迫力が増したと思います。

とかく無難な同色系での表現が多い中、この様な冒険とテーマがマッチしたすごく良い作品だと感心いたしました。

(文責 小村 俊美)

入 選

	題 名	氏 名	備 考
⑨	群	吉 野 瑞 生 (出雲市)	
⑩	初夏の調べ	斎 藤 理恵子 (益田市)	日本画協会賞
	秋容	錦 織 典 子 (松江市)	日本画協会奨励賞
	潮	岸 井 二 美 (松江市)	
	利休梅	恩 田 ゆき子 (奥出雲町)	
	暑さに負ず咲き誇り	塚 本 治 代 (奥出雲町)	
	里の春	目 黒 誠津子 (奥出雲町)	
	藪萱草	宇田川 京 子 (奥出雲町)	
	夏の花カンナ	恩 田 治 美 (奥出雲町)	日本画協会新人賞
⑩	オロチ川	原 邦 子 (出雲市)	会員・日本画協会会員奨励賞
	カンナ	佐 藤 さゆみ (出雲市)	会員
	いつも仲良し	福 間 美智子 (出雲市)	会員
	昼下り	黒 田 育 子 (出雲市)	会員
⑩	花束	井 上 櫻 子 (松江市)	会員・日本画協会会員賞
	季	野 津 恵 子 (松江市)	会員
	ウバユリ	松 下 純 子 (出雲市)	会員
	漫ろ歩き	引 野 春 雄 (出雲市)	
	耐え難く暑い！	有 田 秀 子 (出雲市)	日本画協会奨励賞
	お熱はかりましようね	原 真由美 (出雲市)	
	奏 (クリスタルボール)	北 脇 豊 史 (出雲市)	
	冬木立	岩 崎 隆 (松江市)	

題 名	氏 名	備 考
水辺に咲く	鹿 田 純 子（松江市）	
雨とカサブランカ	藤 原 久 枝（安来市）	

招 待

	題 名	氏 名	備 考
	午後の光	森 脇 純 子（出雲市）	
	夜の共演	小 村 俊 美（出雲市）	
	登り窯	米 原 ひろこ（出雲市）	
⑩	ちひさき花	東 野 布由美（出雲市）	
	牡丹	大 森 幹 雄（出雲市）	
⑩	舞い下りる	村 上 ななほ（松江市）	
	風と遊ぶ	吉 岡 珠 恵（松江市）	
⑩	夢見る午後	広 田 あつ子（安来市）	
	女	三 島 京 子（松江市）	
	白陽	安 部 富 男（松江市）	
⑩	旅の途中	福 間 小夜子（出雲市）	

書

応募点数	112点	招待作品	20点
入賞点数	7点	展示点数	132点
入選点数	105点	移は移動展出品作品	

(総 評)

わが国における書道は、中国の優れた書から書法を吸収、工夫していく中で発展してきた。伝統的な漢字や仮名に加え、近代詩文書、大字書、前衛書といった様々な表現が試みられている。歴史と伝統を踏まえた書法を継承していくとともに、時代の変化に応じた新たな創造を展開して、書の芸術性を一層高めることが求められる。

今回展では、制作意図の明確な作品、表現力が豊かな作品、鍛錬された線が魅力的な作品など、書の奥深さを感じさせる作品が多く出品された。また、銅賞に高校生の作品が初めて選ばれ、今後の書道界での活躍を楽しみにしている。

(文責 山本 英雲)

知事賞 ⑤

やまざきあきこ
山崎明子の句

まつもと けい せん
松本圭仙 (松江市)

潤渇のある線が大きく動き、躍動している中にも安定感がある。

各字にも筆意の変化があり、白と黒との調和がとれた明るく力強い快作である。

(文責 角折 和夫)

金 賞 ⑤

たく
拓

ひの ふじこ
樋野不二子 (浜田市)

紙面を黒で攻めたインパクトのある作。左側の多彩な割れや飛沫も美しく、黒の深味を引き立てた。

(文責 中尾 弘子)

銀 賞 ⑤

たのしむ
愉

やまうち ますみ
山内真澄美 (大田市)

たっぷりの墨量で潤いがあり、穏やかな線で書き進められたこの作品は、始筆も美しく筆脈も自然で紙面にうまく納めた。古風で気どらない作者の品格を感じさせる快作である。

(文責 井上 洋美)

銀 賞 ⑤

これひ
此日ごろ

いしだ ようか
石田遥華 (出雲市)

余白が生き大らかな印象。作品の世界に引き込まれるようで行の呼応も素晴らしい。丁寧で実直な書きぶりが良い。

(文責 伊藤 蘭峯)

銅 賞 ⑨ ^{しゅう や} 秋夜 ^{いま い ま ゆ} 今井真由 (出雲市)

唐詩選の中の韋応物の漢詩。運筆が輕妙で、書線も膨よかでしっとりとした余白が美しい。秋の夜に友人の事を思う心情がこの空間の中によく表現されている。

(文責 戸津川政世)

銅 賞 ⑨ ^{あつ} 篤 ^{たけ した りょう こ} 竹下良子 (大田市)

墨色に透明感があり文字が浮かびあがってみえる。紙面の余白も美しく構成がとても練られた動きのある作である。

(文責 郷原久美子)

銅 賞 ⑨ ^{さい て つ ぶん こう} 祭姪文稿 ^{しば むら} 柴村さくら (浜田市)

古典の特徴をよく捉え、適度な余白で紙面いっぱいにはひろがる若さ溢れる作である。

(文責 室下 景雲)

入 選

「第1部 漢字」

	題 名	氏 名	備 考
⑨	矜嚴好禮動止	山 本 波 留 (大田市)	島根書道会特選
	左繡序	吉 田 み の り (松江市)	島根書道会特選
	雪花	永 見 麗 月 (雲南市)	島根書道会特選
⑨	鴨頭丸帖	木 村 優 子 (浜田市)	島根書道会特選
	半夜	柿 木 和 子 (雲南市)	島根書道会特選
	遊仙十首	竹 田 佑季子 (浜田市)	島根書道会秀作
	應變知微	塩 月 智香子 (浜田市)	島根書道会秀作
	黄花の節	土 江 清 山 (雲南市)	島根書道会秀作
	自叙帖	今 代 淳 子 (浜田市)	島根書道会秀作
	雁塔聖教序	佐々木 結 花 (浜田市)	島根書道会秀作
	楊大眼造像記	宮 本 綾 子 (浜田市)	島根書道会秀作
	生逢盛世	和 田 由実子 (大田市)	島根書道会秀作
	王婆羅門造像記	工 藤 利 恵 (浜田市)	島根書道会秀作
	涼声度竹風	藤 原 明 美 (大田市)	島根書道会秀作
	山光	若 槻 栄 子 (雲南市)	島根書道会秀作
	脱身幽討	北 脇 拓 磨 (出雲市)	島根書道会入選

題 名	氏 名	備 考
静閑	星 野 寿 邦 (雲南市)	島根書道会入選
温恭敬遜	伊 藤 汀 女 (大田市)	島根書道会入選
秋暮	西 川 溪 石 (雲南市)	島根書道会入選
胡風	亀 山 桂 月 (雲南市)	島根書道会入選
陸游詩	錦 織 清 峰 (雲南市)	島根書道会入選
眼看古態嗟	山 内 富紀子 (大田市)	島根書道会入選
争坐位文稿	田 中 美 紀 (大田市)	島根書道会入選
秋の月	野 津 円 (隠岐の島町)	島根書道会入選
一點那容雪	遠 藤 美佐子 (大田市)	島根書道会入選

「第2部 かな」

⑨ 天の海に	米 田 照 蘭 (奥出雲町)	島根書道会特選
九も支遊る	郷 原 華 江 (出雲市)	島根書道会特選
思へども	後 藤 知 郷 (松江市)	島根書道会秀作
秋の日に	竹 内 幸 恵 (松江市)	島根書道会秀作
たなばたは	畠 山 千 鶴 (松江市)	島根書道会秀作
なつの夜の	大 島 由 紀 (大田市)	島根書道会秀作
めぐりあひて	景 山 雅 仙 (雲南市)	島根書道会入選
時雨そむる	庄 司 里 美 (松江市)	島根書道会入選
歌留多	目 次 育 子 (松江市)	島根書道会入選
村雨の	宗 近 惺 月 (江津市)	島根書道会入選

「第3部 近代詩文」

⑨ みさ子の句	長 野 芳 秀 (松江市)	島根書道会特選
本田博子の句	三 島 文 江 (出雲市)	島根書道会特選
篠原鳳の句	福 田 茜 丹 (松江市)	島根書道会特選
狩行の句	渡 部 如 英 (奥出雲町)	島根書道会秀作
真民の詩	石 倉 光 旭 (松江市)	島根書道会秀作
西條八十の詩	安 井 薫 (出雲市)	島根書道会秀作
野見山朱鳥の句	小 笹 浩 子 (松江市)	島根書道会秀作
松瀬青々の句	清 水 洋 子 (松江市)	島根書道会入選
星影のワルツ	妹 尾 由 紀 (雲南市)	島根書道会入選
真民の詩	松 本 さなえ (松江市)	島根書道会入選
鈴木太郎の句	杉 原 美 智 (出雲市)	島根書道会入選
春樹の句	村 上 隆 正 (出雲市)	島根書道会入選

「第4部 大字書」

⑨ 碧	山 本 道 子 (大田市)	島根書道会特選
拓	山 崎 留美子 (大田市)	島根書道会特選
星	三 谷 耕 司 (大田市)	島根書道会特選
信	佐 藤 節 子 (大田市)	島根書道会特選
卷	松 浦 桂 子 (大田市)	島根書道会特選

題 名	氏 名	備 考
道	山 根 京 子 (大田市)	島根書道会秀作
磯	笠 井 康 博 (大田市)	島根書道会秀作
啓	松 浦 益 子 (大田市)	島根書道会秀作
海	黒 瀬 香緒利 (大田市)	島根書道会秀作
創	谷 口 陽 子 (大田市)	島根書道会秀作
耐	松 浦 順 子 (大田市)	島根書道会秀作
輝	郷 原 舞衣子 (大田市)	島根書道会秀作
笑	竹 下 妙 子 (大田市)	島根書道会秀作
涼	安 藤 栄 子 (大田市)	島根書道会秀作
裕	山 本 裕 美 (大田市)	島根書道会入選
我	平 田 美保子 (大田市)	島根書道会入選
誓	雲 石 優 子 (大田市)	島根書道会入選
志	森 屋 伊津子 (大田市)	島根書道会入選
祥	田 平 祐 子 (大田市)	島根書道会入選
和	森 山 孝 子 (大田市)	島根書道会入選
静	福 間 範 子 (大田市)	島根書道会入選
遠	松 原 良 子 (大田市)	島根書道会入選
桜	平 木 美代子 (大田市)	島根書道会入選
暑	高 橋 かをる (大田市)	島根書道会入選
紡	釜 田 英 子 (大田市)	島根書道会入選

「第5部 前衛」

⑩	COSMIC LOVE	上 山 巧 (江津市)	島根書道会特選
⑩	宵	山 根 奈津子 (浜田市)	島根書道会特選
	夢	岡 田 恵 子 (浜田市)	島根書道会特選
	希	佐 野 博 子 (大田市)	島根書道会特選
	カイ	井 上 範 子 (浜田市)	島根書道会秀作
	脱	江 川 由美子 (益田市)	島根書道会秀作
	為	三 宅 撰 美 (浜田市)	島根書道会秀作
	活	坂 根 遙 太 (江津市)	島根書道会秀作
	コウ	小 林 美 恵 (浜田市)	島根書道会秀作
	躍	藤 下 新 葉 (益田市)	島根書道会秀作
	泉	石 原 真紀子 (出雲市)	島根書道会秀作
	キョウ	大 草 明 美 (浜田市)	島根書道会入選
	しん	前 田 典 子 (浜田市)	島根書道会入選
	SHO	山 根 里 美 (浜田市)	島根書道会入選
	流	原 納 芳 道 (益田市)	島根書道会入選
	そう	山 崎 重 子 (浜田市)	島根書道会入選
	無謬	左田野 倫 (浜田市)	島根書道会入選
	むすぶ	西 田 洋 子 (浜田市)	島根書道会入選

「ニューホープ部」

⑩	挑	岡 美沙希 (大田市)	島根書道会ニューホープ賞
---	---	-------------	--------------

	題名	氏名	備考
⑨移	早発白帝城	山 平 悠 斗 (浜田市)	島根書道会ニューホープ賞
⑨移	結	三 島 環 (大田市)	島根書道会ニューホープ賞
	牛楸造像記	柿 永 百合香 (松江市)	島根書道会ニューホープ賞
	愛	釜 田 哲 心 (大田市)	島根書道会ニューホープ賞
⑨移	魏靈藏造像記	加 藤 もえな (浜田市)	島根書道会ニューホープ部特選
	颯	平 田 心 愛 (大田市)	島根書道会ニューホープ部特選
	李嶠詩	森 岡 愛 葉 (浜田市)	島根書道会ニューホープ部特選
	虹	岡 田 あずき (大田市)	島根書道会ニューホープ部特選
	岳飛弔古戦場文	沖 本 采 子 (浜田市)	島根書道会ニューホープ部秀作
	蓮	中 村 蓮 花 (大田市)	島根書道会ニューホープ部秀作
	木簡	中 谷 美 結 (浜田市)	島根書道会ニューホープ部秀作
	香	州 浜 安佳里 (大田市)	島根書道会ニューホープ部秀作
	灌頂記	横 山 都美子 (浜田市)	島根書道会ニューホープ部奨励賞
	好	三 谷 結 衣 (大田市)	島根書道会ニューホープ部奨励賞

招 待

	題名	氏名	備考
⑨移	内野修の歌	吾 郷 純 子 (出雲市)	
⑨移	鞠有黄華	浅 野 江 涯 (江津市)	
⑨移	慶雲興	有 間 裕 子 (大田市)	
	梨	飯 田 徹 山 (大田市)	
	ふりにけり	伊 藤 蘭 峯 (松江市)	
⑨移	面	井 上 洋 美 (大田市)	
⑨移	わがやどの	植 田 畦 水 (江津市)	
⑨移	うつりゆく	小 川 南 (浜田市)	
	龍	沖 田 天 山 (江津市)	
	舞	郷 原 久美子 (大田市)	
	梅本銀山の句	角 折 和 夫 (雲南市)	
⑨移	小曲新詞二首	戸津川 政 世 (浜田市)	
⑨移	しゅう	中 尾 弘 子 (浜田市)	
	白露に…	長 浜 晴 風 (出雲市)	
	はゝ熊が	野 上 昭 子 (浜田市)	
⑨移	萬古清風	室 下 景 雲 (雲南市)	
⑨移	題	山 崎 銀 川 (大田市)	
⑨移	無窮を趣ふ	山 本 英 雲 (松江市)	
⑨移	ゆとり	和 田 美 芳 (江津市)	
	涯	渡 辺 玄 海 (松江市)	

洋画

応募点数	79点	招待作品	41点
入賞点数	7点	展示点数	111点
入選点数	63点	移は移動展出品作品	

(総 評) 本年も、多数の素晴らしい作品を展示することができました。

絵画は、自己表現の世界であり、自分の内面と向き合い、それを形や色で表現しています。何かを伝えようとして描いてはいなくても、観る人は様々なメッセージを受け取ります。新たな発見というか、出会いというか。自分の中に眠っているものを引き出されることもあるし、活力が湧いてくるような感覚になることもあります。それぞれ魅かれる作品も違うでしょうし、それが絵画の魅力であり、深さであると思います。展示されている作品は完成されたものではなく、観る人の感性や経験や思考によって、それぞれの人の中で完結され昇華されます。今回の展示作品を観ながら、そのような思いを強くすることができました。昨年よりも出品数が増え、表現も多様でひとつひとつの作品に味わいがあります。洋画部門でも今回から部門賞として奨励賞を設け、より多くの作品の良さを認め、次作への意欲につなげられるようにと思います。これからも奮って出品をしていただき、この会場がさらに魅力的な空間になることを願っています。

(文責 持田 隆志)

知事賞 ⑧

げん そうきょく 幻想曲

まつ い み かん
松井美柑 (出雲市)

ゆったりとしたポーズで佇む若い女性は、作者自身であると聞きます。現在、そして未来を見据える姿かもしれません。画面に一人、人物を配する際の典型的かつ安定的な位置決めと、抑制された薄墨のようなモノトーンの色調、誇張と省略による明暗の抑揚が静謐なリズムを生む秀作として高く評価されました。

(文責 北本 雅己)

金 賞 ⑧

カラス

さ とう ま ほ
佐藤麻帆 (松江市)

車のフロントガラスから見える車両の後方部を描いています。夜の暗闇の中で、ライトがまばゆいほど光り、水滴が何本も流れています。遠景には、ぼんやりと白や黄の光が点灯し、縦に流れる線、横に広がる光が全体に変化をもたらし、いつも見ている風景なのに実に新鮮な印象を与えています。学生の若い感性で、日常の何気ない風景を美しい画面に再構成している今回の作品には、さらなる表現の可能性を感じます。

(文責 山岡 晴夫)

銀 賞 ②

せいふう
静風

ひら つか かん な
平 塚 栞 奈 (浜田市)

どこにもある何気ない風景を美しい色彩でまとめられました。特に青の色調が変化もあって美しいと思います。右半分のセメント部分の表現は良いと思いますが、左部分の石垣の表現の中に灰色の色調が入れば全体の調和がとれて、上部や草が美しく映えて見えると思います。マチエールを生かし、しっかりと描き込まれた秀作です。

(文責 鳥屋尾 敬)

銀 賞 ②

きょう
境 ～きょう～

たに ぐち まい こ
谷 口 麻衣子 (大田市)

馬の後ろ姿を張り詰めた空気の中で描いています。全体の色調をグレーと青でまとめ、馬のフォルムと周りの線が美しく調和しています。馬の脚部や臀部の肉付きがしっかり把えられていて、デッサン力の秀逸さが光っています。中央左上方部の縦に流れる白い部分がアクセントになって、岩肌の間の割れたような線と馬のフォルムが凛とした美しい画面をつくり出し、作品の品格を高めています。

(文責 山岡 晴夫)

銅 賞 ②

せいりゅう
清流

わたな べ き よ
渡 部 紀 代 (出雲市)

ゆっくりとした時間の流れとひんやりした温度を感じる水族館の中で、子供を優しく見つめる母親のやさしい愛情が表現されています。主調色の青い色相の変化で全体の大きな流れを作り、その中の赤色の動きがそれを助けています。作者のこの時期にしか描けない作品をこれからも続けて挑戦してください。期待しています。

(文責 春日 裕次)

銅 賞 ②

DREAM

お がさわら みのる
小笠原 稔 (松江市)

画面全体に様々な生き物、人間、電車、建物が軽妙なタッチでびっしりと描き込まれている。オールオーバーで一見乱雑な描写にも見えるが、描かれた物象の大小、縦横に走る黒の線描で、画面にリズムが生まれている。ブルーの基調色の上に散りばめられたピンク、オレンジ、イエローの響き合いも美しい。今年の県展出品全作品の中でも、鮮度という点では出色の作品。来年はどんな夢物語の世界を見せてくれるのか、とても楽しみです。

(文責 佐田 尚穂)

銅 賞 ⑨

ぼ だ い じ ゅ
菩提樹い け だ みのる
池 田 稔 (安来市)

初出品ながら銅賞を受賞。100号の縦構図は、木の幹を力強く捉えた表現が印象的です。大小の四角が画面全体にリズムを与えており、視覚的に引き付ける力があります。空間の構成や色の整理を行うことで全体の印象により深みが生まれると感じました。

(文責 金築 秀俊)

入 選

	題 名	氏 名	備 考
⑨	包まって、続くだらう	伊 藤 綾 香 (出雲市)	洋画部門奨励賞
⑨	face	田 中 那 奈 (松江市)	洋画部門奨励賞
⑨	夏の庭	篠 田 巧 (益田市)	洋画部門奨励賞
⑨	たたらの里	佐 藤 健 (松江市)	洋画部門奨励賞
⑨	古代の気配	白 根 倫 (雲南市)	洋画部門奨励賞
	誓いの庭園〜ルゼビラ from your dadd	宍 戸 紀 文 (松江市)	
	浦安の舞	山 根 早 苗 (雲南市)	
	月照	日 野 睦 (出雲市)	
	夜明前の雷門通り	星 野 武 吉 (松江市)	
	まだ眩しく、青々と	遠 藤 望 (松江市)	
	楽器のある静物	杉 本 啓 子 (出雲市)	
	中世の「Takaramono」	塩 川 はるみ (松江市)	
	すいれん	周 藤 春 樹 (出雲市)	
	輝望の道	錦 織 透 (松江市)	
	スラブ系のモデル	池 尻 都 (松江市)	
	花言葉は芯の強さ	長谷川 智 (安来市)	
	日曜日の朝	安 田 千津子 (福岡県)	
	中尊寺金色堂の紅葉	涌 田 稔 郎 (広島県)	
	いつかあの場所で	渡 部 睦 浩 (松江市)	
	外灯	菅 原 華 乃	
	饗餐	太 田 小百合 (鳥取県)	
⑨	Spice of Life ～人生を豊かにするもの～	角 島 貴 子 (浜田市)	
⑨	深淵に咲く	桃 木 榮 子 (浜田市)	
⑨	散歩	澄 川 貢 (益田市)	
	みんなちゃんと食べたかな	周 藤 紀 恵 (安来市)	
	春	熊 谷 健 (松江市)	
	春 花束	三 桐 綾 子 (海士町)	
⑨	つながる命	村 上 かおり	
	紅葉	大久保 実 (雲南市)	
⑨	未来のオリンポス山	坂 井 いちえ (美郷町)	
⑨	貴方を松	坂 井 武 (美郷町)	
⑨	美郷の春	住 吉 勝 (美郷町)	

	題 名	氏 名	備 考
	上から下へ	植 島 郁 己（鳥取県）	
⑩	花と壺	非 々 玲 子（川本町）	
	善がり声	遠 藤 修 一（松江市）	
	ストレリチア	講 武 比富美（松江市）	
	黄昏	白 根 功 雄（松江市）	
	旅情	正 國 享 子（松江市）	
	瑠璃の空	梅 木 美 鈴（奥出雲町）	
	「大丈夫！がんばれ」って夕陽が…	小 畑 敬 子（雲南市）	
	FESTIVAL II	佐 藤 茂 雄（松江市）	
	大山連峰紅葉す	安 達 巖（松江市）	
	波の詩	間 庭 喜美江（松江市）	
	千酌海岸	山 本 百合子（松江市）	
	神様の使い「諸手船神事」	石 川 修 夫（出雲市）	
	ぼくの神楽ごっこ	八 澤 詩 子（松江市）	
	神楽	陶 山 本 子（雲南市）	
	初冬の古民家	門 脇 豊（松江市）	
	時代を越えたダンスバトル	須 山 留実子（松江市）	
	生命燃やして	横 山 恵 子（松江市）	
	面	宅 和 令 子（松江市）	
	街角	岡 本 君 枝（松江市）	
	想い	來 海 豊（松江市）	
	父に教わる外科結紮（2023夏）	小 海 志津子（松江市）	
	惣津浦	森 脇 圭 子（松江市）	
	海辺	荒 木 志 穂（松江市）	
	February	古 曳 小夜子（安来市）	
	麗しの溪谷Ⅱ	高 見 秋 彦（松江市）	
	新緑の山道	大 石 みさを（松江市）	
	No border（へだたりなんてない）	前 迫 ひとみ（松江市）	
	時の旅 25－Ⅱ	山 田 美 鳥（大阪府）	
	静物T	白 根 健（安来市）	
	遠い春	平 井 伸 一（松江市）	

招 待

	題 名	氏 名	備 考
	雨のブルックリン橋	北 本 雅 己（出雲市）	審査員
⑩	來後	春 日 裕 次（出雲市）	審査員
	雲中供養菩薩より	鳥屋尾 敬（出雲市）	審査員
	Interval	金 築 秀 俊（出雲市）	審査員
	甲冑	川 上 浩 平（出雲市）	審査員
	出雲神楽舞	藤 本 雄 二（雲南市）	
	扉	田 部 明 芳（雲南市）	
⑩	枯木	近 藤 隆 夫（浜田市）	

	題 名	氏 名	備 考
	冬の日	高 橋 健 一 (松江市)	
	冬の収穫	高 橋 保 (出雲市)	
⑩	春うらら	宇津巻 由美子 (浜田市)	
	ケセラセラ	名 原 世津子 (出雲市)	
⑩	緑々脈々・鳶	能 美 睦 (江津市)	
	廻	近 藤 顕 (安来市)	審査員
⑩	いいことだけ考えよう	佐 田 尚 穂 (益田市)	審査員
	荒神谷ハス池	塩 野 毅 (雲南市)	
	Re-diary	田 中 敬 二 (大田市)	審査員
	秋色	鶴 原 勲 (出雲市)	審査員
	メロディ	豊 島 美智恵 (松江市)	審査員
	天界に咲く花	中 島 啓 子 (松江市)	審査員
	生への挑戦	仲 西 嗣 雄 (安来市)	審査員
	語らい	原 昌 之 (出雲市)	審査員
	宙	藤 原 房 子 (松江市)	審査員
	自然観察	二 岡 みえこ (安来市)	審査員
	生命	堀 江 睦 子 (奥出雲町)	
	曼珠沙華の咲くころ	前 島 由紀子 (松江市)	審査員
	My Dream	松 村 豊 (松江市)	審査員
	ここに種をまこう	三 島 耕 二 (松江市)	審査員
⑩	生命の鼓動	目 次 隆 志 (松江市)	審査員
⑩	杜の聲を聴け	持 田 隆 志 (出雲市)	審査員
⑩	praying	森 井 久 司 (出雲市)	審査員
⑩	風のかたち 25-2	山 岡 晴 夫 (出雲市)	審査員
	わたしはわたし	山 崎 一 枝 (安来市)	審査員
	炎暑	山 田 悠紀子 (松江市)	審査員
	棲み処-棚瀬	山 本 昌 子 (松江市)	審査員
	萌ゆる	米 原 夕美子 (松江市)	審査員
⑩	もつれ	和 崎 正 美 (益田市)	審査員
	要塞都市ITALIA	長 谷 嘉 恵 (松江市)	
	伝承	中 村 百合枝 (安来市)	
	Black and White	平 野 記 世 (松江市)	
	Fun City	藤 井 早 苗 (松江市)	

工芸

応募点数	42点	招待作品	18点
入賞点数	7点	展示点数	56点
入選点数	31点	移は移動展出品作品	

(総 評) 昨年から鳥根県総合美術展の審査に参加させていただいております。茶の湯の文化を背景にした茶碗や、民藝に影響を受けた陶器、人形など、岡山県とはまた違った歴史や文化、風土が育む地域文化を感じることができ、作品に出会うのはとても新鮮で刺激的です。

本年の工芸部門には、陶芸、漆芸、人形、染織、七宝、ちぎり絵など、一般応募42点の出品がありました。厳正な審査の結果、優秀作品7点、入選31点が選ばれました。応募点数は昨年より1点少なかったものの、出品者の数は昨年を上回っており、今後出品数の増加が期待されます。

応募作品を一つひとつ拝見させていただきましたが、どの作品も個性豊かで多様でした。作者それぞれの想いや作品へのこだわりが感じられました。その中で印象に残ったことは、昨年応募がなかった漆芸部門から知事賞受賞作品が選ばれたことです。とても明るい話題と言えるでしょう。応募点数が一番多かった陶芸では、高校生からベテランまで幅広い世代の方が応募され、独創的で魅力的な作品が揃いました。中には「使ってみたい」と思わせるような茶碗や酒器もありました。鳥根工芸連盟新人賞は今年も陶芸から選ばれています。毎年新人の出品者が増えており、来年以降の陶芸部門に注視していきたいと思います。

受賞7作品に目を移すと、部門別では漆芸1点、陶芸3点、人形1点、七宝1点、染織1点が入賞となりました。知事賞を受賞された漆芸の黒目さんは初出品ながら、豊かな表現力と繊細で丁寧な仕事が高く評価されました。人形の上野さんは3年連続の銀賞、七宝の加田さんも安定した技術が評価され銅賞を受賞し3年連続の入賞となりました。

一方で、残念に感じたのが、ここ数年展覧会場を明るく彩っていた和紙によるちぎり絵作品の応募数が減ってしまったことです。どの部門にも共通しますが、鳥根の工芸界発展と県展のさらなる充実のために、これからも積極的に出品していただけたらと思います。

工芸作品の制作には多くの時間と労力がかかりますが、これからも地道に制作を続けていただき、県展を盛り上げていって欲しいと思います。

(文責 藤井 茂樹／新見美術館館長)

知事賞 ⑨

さざ波紋溜塗箱

黒目孟志（出雲市）

初出品ながら堂々の知事賞受賞は、高い技術力と丁寧な仕事ぶりが評価された結果です。「さざ波紋」は、宍道湖に広がる穏やかな波をイメージしたものなのでしょう。上蓋部分には「螺鈿」と呼ばれる、アワビの貝殻の内側にある光沢のある部分を薄く加工し、漆の表面に貼って装飾する伝統的な漆芸技法が用いられています。特に波が立つ周辺部分は、貝の表面を白くなるまで磨き上げ、さらにその貝を細かく砕き無数に散りばめることで、波が白く泡立つ様子を表現しています。手間と根気がいる作業ですが、そこからは作者の作品づくりへのこだわりが伝わってきます。表面の色は、日の光が水面に反射して金色に輝く様子をイメージして表現しているようで、まるで宍道湖に沈む夕日が湖面に映り込む光景を思わせます。仕上げには「溜め塗り」と呼ばれる、透明感のある透き漆を塗り重ねる技法が使われており、奥行きのある美しい色合いが印象的です。

作者は大学・大学院時代に漆芸を学ばれました。少し制作の期間が開いた時期もありましたが、仕事や子育ての合間を使い根気よく制作し続け、本作を完成させました。

今回の受賞に満足することなく、今後もさらなる高みを目指していただきたいと思います。

（文責 藤井 茂樹／新見美術館館長）

金賞 ⑩

黒釉筋紋壺

古川幸希（出雲市）

壺全体に鎬を入れ黒いマット釉を全体に施釉した秀逸な作品だと思います。

鎬も単純なものでなく、壺の下から肩口にかけての切り換えもアクセントになっていて作品に動きを与えているように思えます。

黒いマット釉も、ムラなく全体に施釉してあり作品に落ち着きと上品さを感じさせる要因になっていると思います。

作者は、ここ数年この鎬ぎの壺に拘り出品されていますが、全体のバランスもよくなり鎬の技術も上がっているように思えます。

可能性をたくさん感じる作品なので、今後の仕事楽しみです。

（文責 内田 和秀）

銀賞 ⑪

紙塑和紙貼「絆」

上野幸美（出雲市）

学生服姿で、遠くを見つめる目。やさしさを感じます。手と手を組んでいる姿からは、動きさえも感じます。絆について考える時、人々のつながりが、薄くなっているのだろうか。世界のあっち、こっちで戦いがおこなわれています。どうしてだろうか。親子の絆、友達の絆、社会の絆、世界の絆、いろいろな絆を大切にしなければいけないという事を、この作品から考えさせられました。

（文責 吾郷江美子）

銀 賞 ③

おう ゆう さん さい もん ひら ざら

黄釉三彩文平皿

お の とも ひこ
尾 野 友 彦 (松江市)

丸皿の口淵部にかけて、白釉を飴釉そして白釉と緑釉の流し掛けによって文様を配しています。このような三彩の釉薬による装飾は出雲地方はもとより、石見焼にも見られる不変的な手法です。その素朴で自由な表現はまさに民芸陶の健康な美という特色を示すものといえるでしょう。

作者は松江市に明治10年(1877)開窯の袖師窯の5代目で、3代の時に柳宗悦、河井寛次郎、バーナード・リーチの指導を受け、民芸の伝統を今に伝えています。「用の美」に発した民芸運動は、当地の工芸にとって重要な要素の一つとなっているのです。

(文責 藤間 寛)

銅 賞 ③

かすりおり も めん え ば みず べ

緋織木綿絵羽「水辺」

あお と やす え
青 戸 泰 恵 (安来市)

緑綿を機械紡績した縦糸に、手紡ぎした綿糸等を横糸にして織り込んだ着物です。染料は草木。カルカヤの黄土色や藍のブルーの濃淡です。深く沈んだ色調の中に、ひと際強く濃紺の藍の縦緋を裾模様配に配して、作者の主張を感じました。肩から胸への細やかな格子模様など、構成に配慮されています。

今後の作品に期待しています。

(文責 松浦 弘美)

銅 賞 ③

有線七宝合子「春の庭」

か だ きょう こ
加田 香子 (出雲市)

鮮やかな緑黄色に彩られた七宝の蓋物です。作者は例年、小物の作品だったのですが、今年は一回り大きな作品にチャレンジされました。その効果があり、生き生きとした春の庭が表現出来ました。七宝は銅、銀などの金属の上にガラス状の釉薬をのせて焼くわけですが、高温の炉の中では均一に仕上がる事は皆無です。作品が大きくなった分、苦労が多かったと思います。色落ちや器形が歪にならない様、細心の注意を払うのが研ぎの工程になります。若干の研ぎ残しが見られますが最小限に抑えられた、春を感じる良い作品です。

(文責 渡部 良和)

銅 賞 ⑨

とうにんぎょう

陶人形「おめかし」

まつ うら みず こ 松 浦 瑞 子 (松江市)

作者は60代半ばごろからカルチャー教室で陶芸を学びはじめ、15年以上にわたり制作に取り組んでこられました。これまでに茶碗や壺などを制作する一方で、大好きな人形作品にも挑戦されています。本年、その人形作品を県展に初めて出品され、見事銅賞を受賞されました。作品はタイトルのとおり、バラの花をあしらったドレスをまとい、帽子をかぶっておめかしをした少女を表現したものです。まるでロマンドールを思わせるような、上品で愛らしい雰囲気印象的です。特にモデルはなく、松浦さんのイメージをもとに制作されたそうです。薄く延ばした粘土を布地のように重ねて着せ付けるという方法が用いられており、焼成時にひび割れが生じないよう、細やかな工夫もされています。

今後も大好きな「人形」をテーマに、意欲的に創作活動が続けていかれることを期待しています。

(文責 藤井 茂樹／新見美術館館長)

入 選

	題 名	氏 名	備 考
	華	吉 山 郁 代 (隠岐の島町)	
	コーヒーカップ&ソーサー	仲 田 和 輝 (松江市)	
	〈紙塑和紙貼〉想い	門 垣 恵美子 (安来市)	
	窯変鉄釉茶碗	郡 司 位 秀 (松江市)	
	ホタル舞う花器	三 島 汎 (飯南町)	
	窯変壺	三 島 汎 (飯南町)	
	刷毛目大鉢	板 倉 清 之 (出雲市)	
	八雲立つ・流雲	内 部 隆 (松江市)	
⑨	根付 (蜈蚣)	福 嶋 次 朗 (安来市)	島根工芸連盟賞
	根付 (かえる)	福 嶋 次 朗 (安来市)	
	Message～祈り～	小田川 佳 子 (松江市)	
	風にのって	米 田 房 子 (松江市)	
	山あいの秋	米 田 房 子 (松江市)	
	飴釉ピッチャー	永 江 妙 子 (松江市)	
	蝶・牡丹紋花器	西 村 仁 伸 (松江市)	
⑨	三重経複様平組織「彩錦」	川 谷 麻結実 (出雲市)	島根工芸連盟賞
	有線七宝絵「すずめ」	加 田 香 子 (出雲市)	
⑨	黒泥並木道紋大角皿	富金原 久 繁 (松江市)	島根工芸連盟 新人賞
	来待石粉花器「花あそび」Ⅰ	松 下 純 子 (出雲市)	
⑨	来待石粉花器「花あそび」Ⅱ	松 下 純 子 (出雲市)	島根工芸連盟賞
⑨	茶入「春のさきがけ」	福 間 達 也 (出雲市)	島根工芸連盟賞
⑨	鎚紋花器	山 田 正 彦 (松江市)	島根工芸連盟賞
	黒茶盃 銘「雲間」	藤 井 弘 一 (松江市)	
	編み込み陶籠	藤 井 淑 美 (松江市)	
	李白作詩月下独酌	高 橋 成 和 (松江市)	
⑨	鉄赤ミミ付つば	江戸端 実 (大田市)	

	題 名	氏 名	備 考
⑩移	割り高台三つ折り櫛鉢	昇 柏 (江津市)	
⑩移	茶碗	山 崎 三 仁 (大田市)	
⑩移	酒器	山 崎 三 仁 (大田市)	
⑩移	中秋織部飾り皿	松 月 (大田市)	
⑩移	寒椿 徳利 お猪口 お湯割カップ	松 月 (大田市)	

招 待

	題 名	氏 名	備 考
⑩移	沈泥彩陶筥	犬 山 卓 也 (出雲市)	審査員
	桑縁鰐淵寺杉神代象嵌捻子組風炉先	正 木 潤 (出雲市)	審査員
	広瀬絣着物 風花	永 田 佳 子 (安来市)	
	省胎七宝鉢「翔」	松 本 三千子 (松江市)	審査員
⑩移	灰被茶盃	福 郷 徹 (益田市)	
⑩移	麻地型絵染染布	黒 川 裕 子 (江津市)	
	布張盆「松江のフィクション・ノンフィクション2枚組」	石 村 稔 (松江市)	審査員
	紙塑和紙貼「花の宴」	吾 郷 江美子 (出雲市)	審査員
	ほら紹織り菱紹生絹着物「森へ続く道」	松 浦 弘 美 (松江市)	審査員
⑩移	栃造拭漆盛皿	濱 田 幸 介 (松江市)	審査員
⑩移	鉄釉・窯変花瓶	荒 尾 浩 之 (大田市)	審査員
⑩移	白釉五角 鉄線花瓶	螺 山 勝 實 (浜田市)	
⑩移	栃造拭漆盛器	村 山 創 達 (松江市)	
⑩移	木綿手紡絣着物「春ひらり」	木 下 恵理香 (出雲市)	
⑩移	紙塑和紙貼「憩う」	松 本 輪加子 (松江市)	
⑩移	縹縹幾何文鉢	内 田 和 秀 (松江市)	審査員
⑩移	杉造箱	渡 部 良 和 (雲南市)	審査員
⑩移	鉄釉椿文鉢	柳 楽 勝 重 (出雲市)	【遺作】

写真

応募点数	98点	招待作品	46点
入賞点数	7点	展示点数	143点
入選点数	90点	移は移動展出品作品	

(総 評) 今年の応募総数は98点、大変レベルの高い作品揃いでした。風景・鳥・スナップ・スポーツ・モデル等々多種多様に及ぶそれぞれの分野で個性豊かに技術力を生かし、作者の想いを込めた作品揃いで楽しい審査ができました。審査基準は、自分の視点を持っている作品か、完成度は高いか、新鮮な作品か、ピントはきているか、構図は良いかを重視して審査いたしました。今やスマートフォン等の普及でデータが宇宙を飛び交っている時代です。誰でも撮れる時代になっています。でも芸術作品を撮るなら「写った写真」ではなく、「写した写真」、力強さ、意外性、新鮮さがないとインパクトに欠け、審査員に感動を与えません。来年以降も多数の方々に応募して頂き、「島根県総合美術展」の評価を高めて頂きたいと思います。来年更に充実した作品に期待いたします。

(文責 川口 和子／一般社団法人二科会写真部 常任理事)

知事賞 移

れいめい
黎明

たちばな
橘

しげ
重

たか
孝

(大田市)

崖の所でのバックホーの黄色が良く効いています。

崖の色調の良さが素晴らしいです。

望遠レンズの立ち効果も生かされ迫力を感じます。意外性と新鮮さを感じる作品です。この場所での着眼点が良く光線も良くそれぞれの色が鮮やかに写されていて絵画的に見える狙いで秀作です。

(文責 川口 和子／一般社団法人二科会写真部 常任理事)

金 賞 移

おめかし

き むら きょう こ
木 村 恭 子

(出雲市)

春の陽光に包まれて、白鷺が飾り羽を整える姿に気品が漂います。

黒い背景が白鷺の純白を一層際立たせ、静かな存在感を放っています。

二羽の構図にも安定感があり、互いの存在が静かな調和を生み出しています。

羽繕いの一瞬を美しく捉えた詩情あふれる秀作です。

(文責 三加茂幸子)

銀 賞 ②

あ^なの夏^きの記^お憶

眞^ま鍋^{なべ}智^{とも}浩^{ひろ}（浜田市）

高校野球の部員でしょうか。少し残念そうな表情が印象的ですが、この作品の優れた点は、ユニフォームの汚れた質感が見事に描写されているところです。

心象的な撮り方ではありますが、これだけの表情描写ができるのであれば、もう一歩踏み込んで、目元をもう少し見せることで、さらに説得力が増すと思います。

画面全体をフレームいっぱいに使っている構図は力強いですが、背景にもう少し情報があると、作品に奥行きが生まれるでしょう。

デジタル時代になって約20年が経過し、多くの方がカラー作品を出品される中で、モノクロ作品としての被写体の選び方は、この作品の魅力のひとつです。

入賞、誠におめでとうございます。

（文責 川本 貢功）

銀 賞 ②

輝^{かがやき}

萩^{はぎ}原^{わら}陽^{よう}子^こ（浜田市）

このたびは銀賞を受賞されおめでとうございます

この3枚組の作品は、ネイチャーフォトではよく撮影される被写体ですが、なによりプリントの仕上げがすばらしいと感じました

通常は撮影時にプラス補正をされることが多いのですが、この作品の場合はマイナス補正で光を強調され、渋い色調でまとめられているところに好感が持てます。

また、撮影時におけるレンズ選定も適切で、フォーカスを1点に集中させた絞りの使い方により、前後のボケが強調され、心地よい画面構成が入賞につながりました。

（文責 品川 功）

銅 賞 ②

視^し線^{せん}

松^{まつ}田^だ桂^{けい}（大田市）

このたびの県展審査において、あくまでも私個人として最も印象に残った作品です。

モノクロで表現されたことで、サーファーのウェットスーツや海の色彩が排され、テーマそのものがより力強く際立っていました。タイトルは「波を待つ」と想像しましたが、視線の先にサーファーらしき人物が写っており、審査時にはその確認が難しかったのも印象的です。

3対2の比率で斜めに構成されたレイアウトも秀逸で、デジタルプリントが主流の現代にあって、1970年代の銀塩プリントを彷彿とさせる味わい深い作品でした。

また、黒フレームが一般的な中で白マットを選ばれた点も、作品の印象を際立たせる効果を生んでいます。

写真表現は、見せ方まで含めて完成するということを改めて教えてくれる、学びの多い一枚でした。

（文責 小林 茂雄）

銅 賞 ⑨

躍動

金 崎

操 (出雲市)

トライアスロン選手の水しぶきが、周囲の人々や背景にまで飛び散り、臨場感あふれる迫力のある一枚となりました。選手の鮮やかなウェアは水に濡れることでさらに色彩が際立ち、視覚的にも印象的なカラー写真に仕上がっています。まさに絶好のシャッターチャンスを捉えた素晴らしい作品です。

このたびは銅賞のご受賞、誠におめでとうございます。

(文責 盆子原政司)

銅 賞 ⑨

躍動(飛ぶ・跳ぶ・翔ぶ)

本 木 儀 和

(松江市)

ご受賞、誠におめでとうございます。

「飛ぶ・跳ぶ・翔ぶ」という三態の組写真は、それぞれの瞬間を見事に捉えたシャッターチャンスの妙が光る、素晴らしい作品に仕上がっています。

さらに、一枚一枚の色彩も美しく、三枚が織りなす構成が絶妙なハーモニーを生み出し、全体として高い完成度を感じさせます。

(文責 大坂 武)

入 選

入選90作品のうち写真部門実行委員会賞として以下全33点を選定した。

- ・優秀賞 (3点)
- ・奨励賞 (10点)
- ・特 選 (20点)

(受賞作品は備考欄に掲載しています。その他の入選作品は氏名の五十音順に掲載しています。)

	題 名	氏 名	備 考
⑨	ハプニング	森 本 美恵子 (大田市)	優秀賞
⑨	デジャヴ	長 崎 嘉 暢 (出雲市)	優秀賞
⑨	遊覧	森 山 典 雄 (大田市)	優秀賞
⑨	入り日を求めて	西 上 一 義 (松江市)	奨励賞
⑨	水の森、光の詩	角 森 俊 一 (出雲市)	奨励賞
⑨	花鳥風月	鶴 島 里 子 (松江市)	奨励賞
⑨	赤い実	島 本 睦 男 (松江市)	奨励賞
⑨	侵入者	奥 村 茂 (隠岐の島町)	奨励賞
⑨	夏の日	内 田 定 廣 (奥出雲町)	奨励賞
⑨	ひたすら	渡 部 貴 志 (松江市)	奨励賞
⑨	鹿子原の虫送り踊り	半 田 恵美子 (隠岐の島町)	奨励賞
⑨	アドベンチャー	伊 藤 剛 寛 (松江市)	奨励賞
⑨	光のファンタジー	糸 原 輝 幸 (奥出雲町)	奨励賞

	題 名	氏 名	備 考
⑨	雪参道	松 本 康 志 (津和野町)	特選
	鍛錬	牛 尾 吉 郎 (奥出雲町)	特選
	時雨の森	石 倉 太 介	特選
	水脈の詩	森 脇 勇 吉 (安来市)	特選
	明日に向かって	大 塚 由美子 (松江市)	特選
⑩	秋風のワルツ	佐々木 美 穂 (浜田市)	特選
⑪	街角	岩 田 毅 (大田市)	特選
	夕映え	吉 井 睦 子 (出雲市)	特選
	里帰り	高 梨 文 博 (隠岐の島町)	特選
	AYU	立 花 伸 一 (雲南市)	特選
	空中遊泳	江 角 好 敏 (出雲市)	特選
	スプラッシュ	竹 下 朗 (出雲市)	特選
	泥んこバレー	岸 光 夫 (出雲市)	特選
	無我	遠 藤 勉 (安来市)	特選
⑫	電子書籍は味気ない	石 田 龍 嗣 (浜田市)	特選
	早乙女さん! (花田植の日)	若 槻 明 郎 (松江市)	特選
	人馬一体	田 中 修 (隠岐の島町)	特選
	ブナの雪すだれ	信 藤 一 郎 (飯南町)	特選
	出漁	木 村 克 己 (出雲市)	特選
	祭日の親子	田 村 啓 子 (松江市)	特選
	カザラズファミリア～不飾家族～	吾 郷 紘 平 (飯南町)	
	瑠璃の情景	安 部 裕 史 (松江市)	
	華の舞	荒 木 和 美 (出雲市)	
	水庭の風景	石 倉 貞 昭 (松江市)	
	春を見つけ、遠くに雪崩の音。いい一日だった。	板 垣 守 (出雲市)	
	祭日	伊 藤 以都子 (松江市)	
	まつりの日	糸 原 詩 郎 (奥出雲町)	
	JUMP	稲 田 崇 (安来市)	
	湖上の華	岩 城 篤 明 (松江市)	
	吉備路燃ゆ	押 柄 隆 夫 (出雲市)	
⑬	チャンスいただきっ!	大 平 由美子 (浜田市)	
	強さと儚さ	尾 原 慶 乙 (出雲市)	
	ひと憩み	景 山 稔 (飯南町)	
⑭	記憶の確度	梶 明 広 (浜田市)	
	春色に包まれて	勝 部 美智夫 (出雲市)	
	クモの中へ	川 上 政 光 (出雲市)	
	祭日	管 敏 朗 (出雲市)	
	路辺の記憶	北 脇 学 (出雲市)	
	人馬疾走	木 下 時 雄 (隠岐の島町)	
	水滴	近 藤 末 美 (安来市)	
	躍動	坂 本 新 次 (出雲市)	
⑮	凝視	佐々木 誠 (江津市)	
	激漕	品 川 辰 朗 (飯南町)	

題 名	氏 名	備 考
老梅	下 川 隆 直 (松江市)	
緑の朝	竹 下 敏 広 (出雲市)	
苔むして	武 田 清 (雲南市)	
ブルーインパルス	田 中 純 子 (松江市)	
写影の中で	田 中 博 義 (安来市)	
決闘	田 村 武 雄 (松江市)	
古池の秋	徳 島 義 孝 (雲南市)	
親子獅子	戸 田 憲 文 (飯南町)	
収穫	内 藤 章 江 (松江市)	
あっつーい！	長 井 嘉 江 (出雲市)	
五月晴れ	長 岡 修 身 (出雲市)	
月光の松江城	柳 樂 昌 宏 (松江市)	
静景	張 玲 姫 (京都府)	
夕焼けに染まる翼	林 悟 (出雲市)	
たたら一鉄滓出しー	原 憲 治 (出雲市)	
眼差しの交差点	原 浩 (安来市)	
おばあちゃんの還暦祝い	万 代 丸 美 (出雲市)	
受け継がれし炎を纏う	平 石 直 大 (出雲市)	
⑩ 朝霧の町	藤 田 昭 平 (江津市)	
寒日	藤 原 あや子 (松江市)	
旧出雲体育館の時間	藤 原 文 男 (出雲市)	
ナガコガネグモ	藤 原 美枝子 (奥出雲町)	
灯台さん、また来るね	堀 江 利 加 (出雲市)	
祭りにいこうよ	牧 原 正 (飯南町)	
雀食堂米争奪戦	松 浦 弘 道 (松江市)	
早乙女	松 岡 治 恵 (松江市)	
古民家解体	松 崎 敏 江 (奥出雲町)	
⑩ 春の日	焼 杉 正 明 (江津市)	
仲良し母娘 (裏見の滝で)	安 田 勲 (飯南町)	
歳月	安 田 朝 行 (松江市)	
麦焼き之舞	吉 田 徹 (隠岐の島町)	
斜行の輝き	吉 田 豊 美 (出雲市)	
今日のはじまり	若 林 文 子 (飯南町)	
由木八幡宮まつりにて	和 田 幹 雄 (飯南町)	

招 待

題 名	氏 名	備 考
⑩ ガッチ祭の子	青 戸 繁 (松江市)	
⑩ 一斉放水	井 上 健 治 (浜田市)	
⑩ メルヘン	入 江 啓 介 (大田市)	
⑩ 憤怒	大 坂 武 (松江市)	

	題 名	氏 名	備 考
⑩移	トップアスリート	尾 崎 剛 (浜田市)	
⑩移	空に舞う	尾 崎 美 智 (浜田市)	
⑩移	争い	春 日 通 男 (出雲市)	
	アロエ畑	桂 川 亮 (松江市)	
	好奇心	金 築 哲 (出雲市)	
	隠岐の馬	川 本 貢 功 (松江市)	
	初冬	菅 野 紘 (松江市)	
	ホリデー	黒 川 恵美子 (松江市)	
	トリオ	黒 川 政 治 (松江市)	
⑩移	家路	小 林 茂 雄 (江津市)	
	雨模様	常 松 利 理 (出雲市)	
⑩移	民家	出 川 正 廣 (松江市)	
⑩移	幾何の夜	寺 澤 富美恵 (益田市)	
⑩移	夜の華	根 宜 康 広 (大田市)	
⑩移	異変	波 積 薫 (松江市)	
	風貌	古 瀬 俱 之 (出雲市)	
⑩移	LEFT&RIGHT	三 浦 秋 男 (益田市)	
⑩移	古代ハス	吉 崎 佳 慶 (益田市)	
	羽織い	若 葉 信 幸 (隠岐の島町)	
⑩移	笑顔のゴール	三加茂 幸 子 (出雲市)	
	祈りを込めて	酒 井 重 礼 (松江市)	
	夕風の詩	川 上 泰 正 (出雲市)	
	懐古	岡 一 夫 (松江市)	
	龍蛇入水	石 飛 桂 子 (出雲市)	
⑩移	秘めたる華	西 尾 透 (出雲市)	
	飛沫	井 上 豪 (松江市)	
	黄昏	森 脇 寿 一 (松江市)	
⑩移	祈り	品 川 功 (大田市)	
	放つ瞬間	田 村 唯 男 (松江市)	
	アスリート	田 中 利 博 (奥出雲町)	
⑩移	祭囃子が聞こえる頃	松 谷 敏 秀 (浜田市)	
	黄の刻	大 下 浩 昭 (松江市)	
	帰り道	渡 辺 正 史 (松江市)	
	黄昏	宮 廻 功 (松江市)	
	一畑寺にて	土 江 真 弘 (出雲市)	
	たたら	西 澤 由 英 (奥出雲町)	
	西郷湾夜明け	前 田 健 (隠岐の島町)	
⑩移	早春	江 川 安 夫 (浜田市)	
⑩移	お月見のころ	太 田 淳 子 (松江市)	
⑩移	影の舞	盆子原 政 司 (江津市)	
	天真爛漫	岩 谷 順 子 (松江市)	
	8 万年後の未来へ	大 谷 剛史郎 (飯南町)	

デザイン

応募点数	48点	招待作品	17点
入賞点数	7点	展示点数	65点
入選点数	41点	移は移動展出品作品	

(総 評) この度、第58回となる島根県総合美術展が長きにわたり重ねてきた歴史と文化的意義に、深く敬意を表します。栄えある審査員として招聘いただきましたことを、衷心より光栄に存じ、感謝を申し上げます。

島根県と広島県尾道市とは、歴史的に物流で交流があったことが広く知られていますが、民俗芸能においても、尾道市を含む広島府の神楽の多くが島根の神楽の影響を受けて発展・継承されてきた経緯もあり、島根の地を訪れることを心より楽しみに致しておりました。

実際に島根県立美術館へ伺い、同館が県内外の方々が気軽に訪れることのできる開かれた場所として機能し、収蔵作品の素晴らしさもさることながら、閉館時間も日没後とされているなど、文化芸術が人間と社会を美しく彩る営みであることを関係各位が真摯に捉え、地域の歴史と文化を精力的に継承しようと活動されていることに対し、深く敬服いたします。

作品審査においては、県民の皆様の創造性が結集した作品群を、島根の地が持つ文化的な奥行きを肌で感じながら拝見させて頂きました。本年の応募作品において特筆すべきは、その圧倒的な独創性の高さにあると考えます。現代社会においては、効率性を追求する風潮が否応なく存在しますが、今回、審査の俎上に載せられた作品の全ては、流行の画風や安易なデジタル手法に依存しない、作者の純粋な創作意欲から生まれていることを確信し、圧巻されるばかりでした。

ポスターコースでは、郷土の魅力を伝える個性的な工夫や機知に富んだ表現が多く見られたほか、イラスト・造形コースにおいては、繊細で精緻な構成や技法を駆使したもの、平面媒体の物理的限界を超えて空間表現を試みる作品など、挑戦的かつ多角的な表現が多く見られました。コースを問わず、応募作品は総じて鑑賞者が足を止め、時間をかけて向き合うことを意識した構成であり、デザインの基本を忠実に守りながらも、深い洞察力和高い技術を駆使して制作されていたことに加えて、作者の方々が持つ「島根」という郷土への深い愛情が見え、鑑賞者の心を揺さぶることに疑いはありません。

さらに、昨年よりも応募作品数が大きく増加したことを島根デザイン連盟の方々から伺い、島根の地に深い芸術文化への理解と豊かな表現の土壌があるからこそ、独創性を持つ作品が多く応募されたことを改めて感じるところです。道具や時流に翻弄されることなく、自己の美術表現を追求する作者の方々の表現との実直な向き合い方へ、同じ表現者として尊敬の念を抱きます。

昨今は、美術も合理性や経済性などの尺度で評価されることがありますが、島根の風土に根ざした島根県総合美術展は、現代のデザイン界へ「原点」の大切さを示唆する極めて重要な美術展として、今後の更なる発展を期待するものです。

(文責 伊藤 麻子/尾道市立大学 美術学科 准教授)

知事賞 ⑨

いずも みりょく 出雲の魅力はヤオヨロズ 山 下 抄友子 (出雲市)

神在月に集う八百万の神々のように、多種多様な魅力がある出雲、この「出雲」をうたいあげた素晴らしいロゴである。

神話、食材、縁結、古代出雲からのヤオヨロズをロゴの中に銅剣、銅鐸、しめ縄、たなびく雲、縁結び、鳥居などを折り込んだ文字として仕上げている。おだやかな色彩のグラデーションも好感がもてた。

まさに出雲の魅力はヤオヨロズであった。

(文責 石野 眞)

金 賞 ⑨

ねこまち ぐんじょうどお 猫町群青通り 山 野 芽 生 (松江市)

絵本の挿絵イラストのように、見るものを想像の世界に導いてくれるような楽しさがある。細やかな表現と美しい色彩は、確かな力量を感じると共に、遊び心が十分に伝わり、隅々まで見たくなる衝動に駆られる。

題名から青い紫陽花を中心に展開されている猫の街並みを表わしていると思われるが、紫陽花の横へのラインが、作品をまとめるのに効果的な構成になっている。

やや全体的に詰めすぎの感があるので、空間の取り方を意識されるとさらに良いと思われる。

(文責 内田 京子)

銀 賞 ⑨

つ ゆ め ぐ ぜん せん 梅雨巡り前線 田 中 千 智 (松江市)

作品タイトル「梅雨巡り前線」のとおり梅雨のジメジメ感をカエルを用いる事によって、みずみずしく楽しく表現されているのに感動しました。

描かれているカエルも個体ごとに動きや表情が異なり、楽しい表現を効果的にしていることに好感がもてました。

白から青のグラデーションを使うことで、梅雨の暗さを明るくものにしていて、素敵な作品に仕上がっています。

(文責 梶 明広)

銀 賞 ⑨

どう ぶつ ず かん はかせ 動シヨク物図鑑と博士のアトリエ 山 崎 絵 里 (松江市)

独特の世界観に引き込まれる作品である。架空の動物を植物名を元につくるというアイデアは、斬新で想像力も膨らむ。

また、彩度が抑えられた色彩は、レトロな雰囲気醸し出し、置かれている双眼鏡などの小物によって、図鑑を片手に窓の外を眺める高齢の博士が想像できる。

今後のアイデアあふれる取り組みが楽しみである。

(文責 内田 京子)

銅 賞 ⑨

こころ こころ
心と心がふれあうときか もと み ちる
嘉 本 光 留 (出雲市)

とてもしっかり描きこまれた、エネルギッシュな作品です。タイトルを見なくても、画面のハートとハートで心と心がふれ合っていることがわかります。

背景のにじみは不安を表しているのでしょうか？様々な触手や、色とりどりの大小の丸や点は、お互いの言葉を表しているのでしょうか？2人の心と心がぶつかり合い、ふれ合っていることがよくわかります。明るい色合いが「希望」を感じさせます。

(文責 奥 美奈子)

銅 賞 ⑩

くう こ
喰子かく はら さ き
角 原 咲 樹

デザインの迫力とパワーを感じる作品。黒と白の大胆かつ繊細な画面構成に唯一の色彩である黄色が適確に配置され効果を生んでいる。また左上のタイトル文字や右下の文字の大きさ、傾き、書体など考え抜かれていることが伺える。さらに中央の喰子の口元に視線が集中する計らいは心憎いばかりである。

これぞ「デザイン」と言える秀作だ。

(文責 近藤 隆)

銅 賞 ⑪

BABY MIND?

もり わき げん た
森 脇 玄 太 (松江市)

インパクトのある作品です。しかも、長らく観ていても飽きさせません。

枠の側面まで描き込んで、制作を楽しんでいるのが伝わってきます。

また、ディテールに遊び心を感じさせるとともに、色彩設計も巧みです。

大人たちに子ども心と呼び覚ますほどのエネルギーにあふれています。

(文責 春日 謙一)

入 選

題 名	氏 名	備 考
郷愁	関 のぞみ (鳥取県)	
影を受け入れる光	田 中 さ ら (奥出雲町)	
神在りし島根県	梶 谷 大 樹 (大田市)	
315OKI	竹 森 未 唯 (奥出雲町)	ポスター部門奨励賞
沈黙ほど、重いものはない。	DHUNGANA SAUGAT (奥出雲町)	
根の国	日 野 建 一 (出雲市)	
多伎一波音に包まれる、癒しの町。	安 喰 優 奈 (出雲市)	
ご縁がはじまる県、しまね	高 瀬 里佳子	県外審査員特別賞
海に魅せられて	安 井 祐 貴 (出雲市)	
神の浜の観客	松 浦 諒 (松江市)	
神在る岬	楨 原 玲 奈	
悠久の出雲	植 薄 仁 美 (益田市)	
Year of the snake	渡 部 史 也 (松江市)	

題 名	氏 名	備 考
描く私	内 田 祈 (奥出雲町)	
与志先生	山 縣 未 空 (松江市)	
炎神	今 井 海 咲 (松江市)	
門出	青 木 咲 樹 (出雲市)	
富嶽大蛇討伐之景	足 立 博 基 (奥出雲町)	
龍爺と戦士たち植物と化す	細 木 博 文 (松江市)	
New Style	布 野 陽菜佳	イラスト・造形部門奨励賞
灯火と共に	藤 原 小 雪 (出雲市)	イラスト・造形部門奨励賞
婉然の白絹	上 田 潤 南	県外審査員特別賞
消しゴムはんこによるタイリング表現Ⅲ～波 (なみ)	福 島 賢 二 (江津市)	
また会う日まで	松 浦 晴 香 (松江市)	
anxiety	若 松 真 奈 (松江市)	
幸せの雲に乗って	森 朱 里 (奥出雲町)	
りつこのもじ ぱあと 2	安 達 律 子 (松江市)	
不死鳥 宙	山 縣 将 平 (松江市)	
9-3	山 折 ゆき乃	
海底教室	ね こ ろ び (松江市)	
わたしの存在	さ ば	
仲良くなれるかな	立 花 わたる (出雲市)	
SCISSORS~Destruction and Creation~	藤 原 富貴子 (雲南市)	
春を待つ (アナグリフで観る立体視)	Yumiko,Otsuka (松江市)	イラスト・造形部門奨励賞
私を愛せるのはただ私のみ	I c c y (松江市)	
レストラン壁用 B.	小 瀧 由香里 (出雲市)	
My Cards	貝 谷 久美子 (美郷町)	
明るい未来へ	龜 谷 百 麗	
ねこカフェ	林 舞倫子 (松江市)	
Harvest Sphere (実りの球体)	池 淵 成 美 (松江市)	
八雲を目指せ	藤 原 久 子 (松江市)	

招 待

	題 名	氏 名	備 考
③	島根県スポーツ協会 100周年記念誌	石 野 眞 (松江市)	
③	GAHAN2025-06<崩壊>	寺 尾 堂 (益田市)	
	円による構成	遠 藤 毅 (雲南市)	
③	HANDL WITH CARE	近 藤 隆 (安来市)	
	オープンマインドを考える	秋 國 紋 子 (出雲市)	
	PEACE「変えられる。澄んだ環境と穏やかな地球に」	内 田 京 子 (奥出雲町)	
③	百歌花暦～月見草	奥 美奈子 (大田市)	
③	Encounter with the midnight	梶 明 広 (浜田市)	
③	地面効果翼機 MA-O XV	春 日 謙 一 (松江市)	
	生まれかわったら何になるのかなWhat would I be if I were reborn?	玉 木 喜久代 (出雲市)	

	題 名	氏 名	備 考
	夕炎	柳 楽 武 臣 (出雲市)	
⑩	コルミング	錦 織 秀 行 (雲南市)	島根デザイン連盟賞
	MADOROMI	八 谷 真 人 (松江市)	
	シーン山中鹿介	平 江 透 (松江市)	
	世界へ飛び出せ	山 川 房 子 (安来市)	
	ノイズ	代高田 由 梨 (鳥取県)	
	素敵な侵略	勝 田 優 介 (松江市)	

彫刻

応募点数	14点	招待作品	4点
入賞点数	7点	展示点数	18点
入選点数	7点	移は移動展出品作品	

(総 評) 高校生から90歳までの幅広い年代からの出品がありました。抽象形態から具象形態、素材としても塑像、木彫、テラコッタ、石膏と様々なものを使用し、自分の表現したい形態を追求しながら素材と闘った跡がよく伝わってきました。人体の具象作品からは、ただ観察して写すだけに留まらず、対象物から醸し出された雰囲気をどのように表現しようかという葛藤も作品から見ることができました。このような作品が彫刻としての魅力につながっていくのだと思います。

残念ながら展示総数が昨年より8点少なく、18点となりました。やはり彫刻を制作する上で、かなりの労力を必要とすることが、制作を始める時の大きな壁となります。そういう中で長年制作を続けて出品していただけていることに頭が下がります。

彫刻制作を通して、自己を表現する力を磨き、観賞者に「こんなこともできるのか、どのようにして制作しているのだろう…」と思わせるような作品が出品されることを願います。「あれっ?」と思わせることが、新しい制作者を生み出し、次世代につながっていくことになると思います。(文責 兼原 啓二/長崎大学 准教授)

知事賞 移

Symbiotic Forms ^{ぐんせい}一群生^{たち}立^{ばな}花^{わたる}航(出雲市)

スケール感のあるインスタレーション的な群像彫刻です。作者は近年、陶土を直火焼成する技法に取り組んでこられ、今展では、大型の組作品として結実されました。大型化が難しい技法ながらも粘り強く制作スタイルの工夫を重ねて、技法上の難点を克服できている作品となっています。

インスタレーション的な3体の配置は、3体が有機的にめぐるような関連性を表している雰囲気をまとっており、それぞれに突起部分がアクセントになっています。また、色の違う石粉粘土が作風にシャープな深みを与えています。

(文責 伊藤 眞美)

金 賞 移

^{ひかり}光^お尾^{ぞう}添^{のぼる}昇(出雲市)

これまで出展されていた、ゆったりとした穏やかな作風からの変化を求め、挑戦された作品です。人体をモチーフとした丸みのある形態と、相対する形態との混在により、拮抗した動きや生命感を感じさせる幻想的な作品です。

今後も自己の表現形態を探りながら制作されることを望みます。次作が待ち遠しいです。(文責 伊藤 眞美)

銀 賞 ③

ふゆ あさ
冬の朝

おお はた ひろし
大 畑 敬 (松江市)

ニット帽とネックウォーマーを着けた若い女性の像から、めっきり寒くなった街の風情を感じさせる作品です。着色が効果的で、顔の表情を引き立てています。顔をはじめ、頭部全体の造形もしっかりしていて安定感があり、冬の街角を散策する情景が浮かぶようです。

(文責 伊藤 眞美)

銀 賞 ③

い き けん こう
意気軒昂

はま まつ ゆう じ
濱 松 祐 二 (江津市)

アマビエとは、海上に出現し、疫病を封じたとされる日本の妖怪です。このアマビエをモチーフに、コロナ禍において疫病の終息と平和を願い作られた、躍動感あふれる作品です。着色は素焼きの後、粉殻を焼成して施されており、苦心がうかがえます。ぬめり感のある作品表面の質感や焼成による黒とベージュの色の変化とが、作品の魅力の一つになっている労作です。次作も期待されます。

(文責 伊藤 眞美)

銅 賞 ③

おんな
女

しも がき あきら
下 垣 明 (出雲市)

この作品を見つめていると、河原の石の造形と人の手仕事との融合によって、「現実」と「非現実」とが融合された「不思議」な感覚を観る人に感じさせます。観る人をどこか異次元の世界へと誘う幻想的な作品となっています。

素っ頓狂な表情や存在感が、観る者に「この像は、何を考えているのだろうか」「この人はどの世界にいるのだろうか」などと色々な思惑を抱かせる作品となっています。また、展示方法にも工夫が見られ、台座では曲げられた太めの鉄棒で、軽やかさを感じさせます。

(文責 伊藤 眞美)

銅 賞 ③

ひつじ
羊

あさ はら ゆう じ ろう
浅 原 勇二朗 (松江市)

初めて粘土による制作に挑戦された作品です。粘土という新たな素材に触れ、いくつもの工夫を施して完成させた喜びを感じます。

羊の骨格や表面のふっくらした毛の表現などからは、造形と真摯に向き合った様子がうかがえます。毛並みのふくよかさと、顔のしまりある表現とが小気味よく、コントラストの効いた作品です。今後の挑戦にも期待が膨らみます。

(文責 伊藤 眞美)

銅 賞 ⑨

たわむれ

郷 田 勝 (江津市)

大きなひょうたんに小さなモチーフがリズム良く配置された作品です。イチョウの材質を最大限に活用して、ひょうたんを中心に遊び心をユーモラスに表現しています。楽しい様子は、高山寺にある平安期の国宝「鳥獣人物戯画」をも連想させます。

(文責 伊藤 眞美)

入 選

	題 名	氏 名	備 考
	危うい空間	松 谷 伸 吉 (出雲市)	
	初夏のせせらぎ	大 畑 敬 (松江市)	
	静思	原 増 男 (出雲市)	
	十一面観音	田 中 修 (隠岐の島町)	
⑨	祥縁	川 神 登 (浜田市)	
⑨	夏に微笑む女	横 山 佳 奈 (出雲市)	彫刻会 奨励賞
	息吹	岡 一 葉 (出雲市)	

招 待

	題 名	氏 名	備 考
⑨	S子さん	伊 藤 眞 美 (出雲市)	審査員
⑨	好日	佐 藤 信 光 (安来市)	
⑨	古里に帰る	田 中 俊 晞 (江津市)	審査員
	ぐるぐる	近 田 裕 喜 (安来市)	審査員